

## 自閉症児の同一性保持現象についての検討

石 倉 健 二<sup>1)</sup>, 高 島 恭 子<sup>1)</sup>, 高 橋 信 幸<sup>1)</sup>  
井 手 睦 美<sup>2)</sup>

(<sup>1)</sup>長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科、<sup>2)</sup>早岐デイスサービスセンター)

### 要 旨

自閉症の大きな特徴の一つである「反復的で常同的な様式」は「同一性保持現象」とも呼ばれ、問題行動とみなされることも多い。本研究はこの「同一性保持現象」について、自閉症児の母親15名に質問紙調査を実施し、以下の結論を得た。一つ目は、「単純反復運動」で特徴づけられる「常同行動」と、「固執」「配列」「質問嗜好」「空想」で特徴づけられる「こだわり行動」はその出現の様相が異なることが示された。このことから、「常同行動」と「こだわり行動」は別々の機能的側面を有することが示唆された。二つ目は、「一週間後の予定の理解」のある者の方がその他の者よりも、「こだわり行動」が多いことが示された。「時間的見通し」が「こだわり行動」に影響を与える独自の要因であるのか、言語能力や「時間的なこだわり」を反映するものなのかは定かではなく、今後の更なる検討が求められる。

### キーワード

自閉症、同一性保持現象、こだわり行動、常同行動、時間的見通し

### 問題と目的

自閉症は、対人的相互反応における質的障害、意志伝達の質的障害、行動・興味および活動の明らかな制約、反復的で常同的な様式の存在、などによって特徴づけられる発達障害である。近年の自閉症研究は、社会性障害を一次的障害と考え（別府 2001）、社会性障害と自閉症の障害論の関係で論じられる傾向にある（黒田 2007）。

しかし一方で、そうした自閉症の障害論に関する研究だけでなく、自閉症の持つ独特の症状や特異的行動についても、幾つかの視点から検討が行われている。特に、上記の「反復的で常同的な様式」については、「同一性保持現象」とも呼ばれ、それはどちらかと言うと療育者には問題行動と見なされやすい。そのためか、この同一性保持現象に関しては、幾つかの検討が行われている。中でも石井・若林（1967）は、同一性保持現象が「単純反復運動 対象の固定

化と固執 配列の固執 質問嗜好 空想の諸段階」という道筋をたどり、「精神発達に伴って変遷する」と述べ、そこにいわば発達的变化があることを示唆している。

さらに鬼塚・大神（1997）も、自閉症児のこうした同一性保持現象について検討を行っている。それによると、同一性保持現象については「常同行動（石井・若林の『単純反復運動』と同意）」とそれ以外の「こだわり行動（石井・若林の『対象の固定化と固執』以降）」には質的な違いがあり、両者は異なる背景をもって出現していると考察している。またそれに加えて、自閉症の一次的障害と考えられている「社会性障害」と同一性保持現象について、Wingの示した社会的相互作用に関する3つのカテゴリーを用いて検討を行い、幾つかの知見を得ている。Wingの3つのカテゴリー、すなわち「Aloof 型（社会的相互作用において重度の障害を意味するものであり、どのような状況におい

ても孤立し無関心な態度を示すものや、要求行動は行うが要求が満たされると再び孤立状態に戻ってしまう)、「Passive 型(自発的な社会性相互作用を行わないが、他者の接近を認めるなどの受動的ではあるが他者との社会性相互作用を行う点で Aloof 型とは異なる。例えば、他の子どもから遊びに連れて行かれてもそれに反抗することはないが、指示がなければ最終的にはその遊びから離れていってしまうようなものである)」および「Active 型(自発的に社会的相互作用を行うが、それらの行動や仕方が不適切である。例えば、他者が困った表情や嫌な表情をしていてもそれにかまうことなく、自分の好きなように活動し続けるようなもの)」と、同一性保持現象の関係については、「常同行動」が Passive 群において多く、「こだわり行動」が Active 群において多いことが示された。このように同一性保持現象は、それそのものの発達的变化だけでなく、他の能力との関連があることも示唆されている。

筆者らは、2002年11月からN大学内で地元の自閉症協会の会員と合同で、自閉症児の集団活動グループ(Dクラブ)を行っている。2007年度のDクラブは毎月第一土曜の午後に活動を行っており、毎回15名前後の自閉症児が参加をしている。スタッフは、N大学を中心として市内と隣県の短大、高専、高校などの学生が参加し、運営を行っている。こうしたDクラブでの経験から、今日一日の予定や一週間後の予定を理解できる子どもは、次の行動への切り替えが容易で、同一性保持現象も少ないという印象を持っている。そして、そうした「時間的な見通し」が持てない子どもは、次の行動への切り替えが難しく、同一性保持現象も強いような印象がある。

そこで本研究は、自閉症児の同一性保持現象について、「常同行動」と「こだわり行動」の質の違いについて鬼塚・大神(1997)を検証するとともに、時間的な見通しと同一性保持現象の関係についても検討を行い、自閉症児の同一性

保持現象についての考え方や関わり方について検討することを目的とする。

## 方法と手続き

### 1 対象者

自閉症児15名(平均13歳6ヶ月、10歳1ヶ月~17歳11ヶ月)の保護者

### 2 調査方法

A市の自閉症親の会の会合に調査担当者が参加し、研究内容について口頭で説明を行った後、回答に同意していただけた方に改めて詳細な説明をし、質問紙に回答をしてもらった。回答後は、回答者本人に封入してもらい、その場で回収を行った。

### 3 調査項目(資料参照)

- (1) 同一性保持現象：鬼塚・大神(1997)が操作的に分類した以下の6項目の同一性保持現象について、回答時点で「ある・なし」の2択で回答を求めた。

常同行動(設問番号1~4) 固執(設問番号5~9) 配列(設問番号10~11) 儀式的行動(設問番号12~14) 質問嗜好(設問番号15~17) 空想(設問番号18~19)

- (2) 社会的相互作用：Wingの社会的相互作用「Aloof 型・Passive 型・Active 型」の3分類について、鬼塚・大神(1997)が作成した以下の質問項目を用いて「はい・いいえ」の2択で回答を求めた。

Aloof 型(設問番号20・21) Passive 型(設問番号22) Active 型(設問番号23・24)

- (3) 時間的な見通し：「今日一日の予定の理解(設問番号25)」 「明日の予定の理解(設問番号26)」 「一週間後の予定の理解(設問番号27)」ができるかについてそれぞれ「はい・いいえ」の2択で回答を求めた。また、「予定を伝えるときの方法(設問番号

- 28)」については、別途自由記述を求めた。
- (4) 同一性保持現象の強さ：「こだわり行動を制止または変更させること（設問番号29）」について、「非常に困難」「困難」「わりとスムーズに可能」「可能」の4件法とした。また、「こだわり行動をうまく制止または変更させるための対応方法（設問番号30）」については、別途自由記述を求めた。

## 結 果

結果の集計にあたっては、鬼塚・大神（1997）の知見に基づき、同一性保持現象を「常同行動」とそれ以外の「こだわり行動」とに分類するものとする。

### 1 個別プロフィール

表1に示す。なお、Eについては、「社会的相互作用」の項目が未回答であったため、集計と分析から除外する。

### 2 同一性保持現象についての特徴（図1）

同一性保持現象の数については、「常同行動」数が0個の者が3名、1個の者が2名、2個の

者が8名、3個の者が2名であった。また「こだわり行動」の総数について、4個以上10個未満の者が9名、10個以上の者が6名であった。「常同行動」と「こだわり行動」の発生数についての相関係数は-0.22で、t検定を行ったが両者の間に有意な関係は認められなかった。

### 3 同一性保持現象と時間的見通しの関係について（図2）

時間的見通しの3タイプと、「こだわり行動」との関係について分散分析を行った。その結果、時間的見通しと「こだわり行動」の間に有意差が認められた（ $F(1, 11) = 22.48, p < .0001$ ）。下位検定を行ったところ、「今日一日の予定の理解なし」と「一週間後の予定の理解あり」の間は $p < .0001$ で有意差を認め、「今日一日の予定の理解あり」と「一週間後の予定の理解あり」の間では $p < .001$ の有意差を認めた。

時間的見通しと「常同行動」の関係について分散分析を行ったが、有意差を認めることはできなかった。

表1 個別プロフィール

対象者	年 齢	診断名	時間的見通しについて	常同行動数	こだわり行動数
A	10歳	自閉症	一日の予定の理解有	3	5
B	10歳	自閉症	一日の予定の理解無	2	5
C	10歳	自閉症	一週間後の予定の理解有	0	11
D	11歳	自閉症	一週間後の予定の理解有	0	15
E	11歳	自閉症	不明	2	7
F	11歳	自閉症・知的障害	一日の予定の理解有	1	10
G	11歳	知的障害・自閉傾向	一日の予定の理解無	2	4
H	12歳	自閉症	一週間後の予定の理解有	1	15
I	13歳	自閉症	一週間後の予定の理解有	2	15
J	13歳	知的障害	一日の予定の理解無	2	10
K	16歳	自閉傾向	一日の予定の理解無	2	5
L	16歳	自閉傾向	一週間後の予定の理解有	3	14
M	17歳	知的障害	一日の予定の理解有	0	7
N	17歳	自閉症・知的障害	一日の予定の理解無	2	7
O	17歳	自閉症	一週間後の予定の理解有	2	15

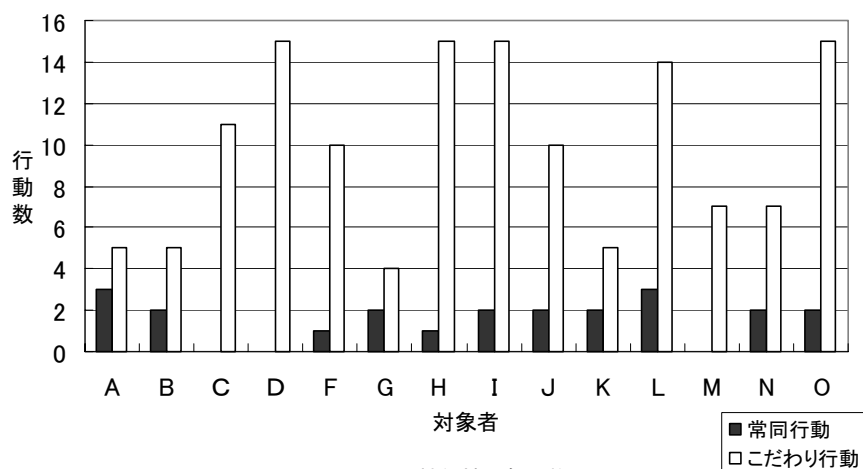


図 1 同一性保持現象の数

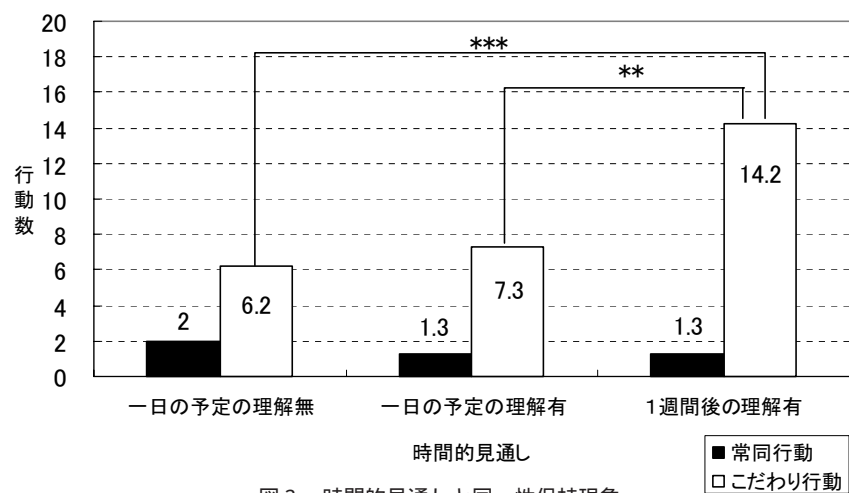


図 2 時間的見通しと同一性保持現象

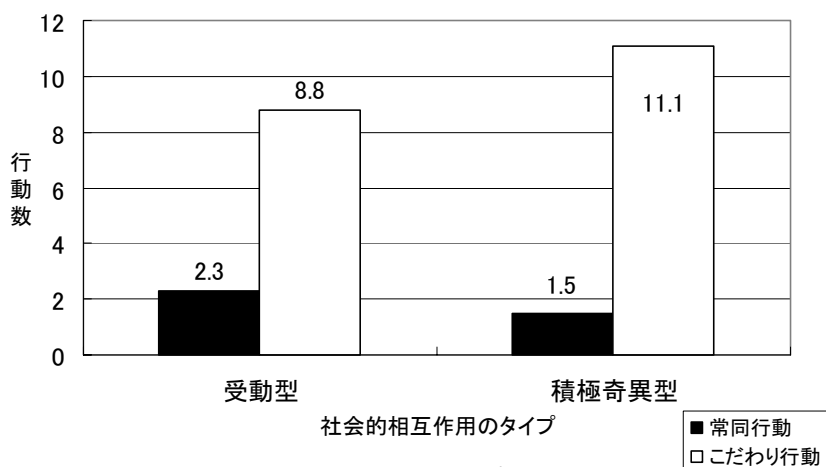


図 3 社会的相互作用のタイプと同一性保持現象

#### 4 社会的相互作用のタイプについて(図3)

鬼塚・大神(1997)が用いたWingの分類に従って、社会的相互作用のタイプを3タイプに分類し、常同行動数とこだわり行動数について分散分析を行ったが、有意差は認められなかった。

#### 考 察

##### 1 常同行動とこだわり行動について

鬼塚・大神(1997)は「常同行動」が、必ずしも他の「こだわり行動」の前に出現するとは限らず、また「こだわり行動」が減少・消滅した後も「常同行動」が継続している自閉症児が少なからず存在することから、「常同行動」と「こだわり行動」は異なるメカニズムまたは機能的側面をもつ可能性を指摘している。本研究においても、両者の発生数には関連が認められなかった。これは、「常同行動」と「こだわり行動」は異なる背景を持つものであるという鬼塚・大神(1997)の主張を裏付けるものであり、「常同行動」の意味や機能的側面についてさらに検討していく必要がある。

##### 2 同一性保持現象と時間的見通しについて

調査前の仮説としては、時間的見通しのない者の方が同一性保持現象は多いのではないかと考えていたが、今回はこれと逆の結果が導き出された。このことについては、幾つかの考察が可能である。一つは、「時間的見通し」が同一性保持に大きな影響をもつ独自の要因となりうる可能性である。その場合、「時間的見通し」があるからこそ、未来に向けての内的な調整機能として同一性保持が多く見られると考えることもできる。もしそう考えるならば、同一性保持は未来の行動を促すための積極的な役割をしているので、それを取り除くようなことは好ましくないということになる。そうなれば同一性保持を「問題行動」と捉えることについては、さらに慎重な検討が必要となる。

その一方で、「時間的見通し」は別の何かを

反映するものとも考えることもできる。星野ら(1980)は、無言語群より有言語群において同一性保持が多く見られることを報告しており、今回の「時間的見通し」も言語能力やあるいは知的能力など別の能力を反映している可能性もある。そうであるならば、「時間的見通し」ということについて、言語能力や知的能力との関係を詳細に検討する必要がある。そしてさらに、言語能力や知的能力と同一性保持との関係について検討しなければならない。

また、「時間的見通し」の能力そのものが、時間に対する一種のこだわりを反映していると考え、これは単にこだわり行動の種類と頻度の多さを示すものとも考えられる。ただ、こうした時間に対するこだわりは系統的に報告されておらず、これまであまり注目されてきていないものだけに、検討に値するものとも考えることもできる。

いずれにしろ、自閉症児の時間的見通しに関する研究はまだ詳細に行われていないため、今回の設問もまったく試行的なものであった。そのため「時間的見通し」ということ概念整理や設問については改めて検討をする必要がある。加えて、調査対象者数を増やすことで、さらに具体的な示唆を与えることも求められる。それにより、自閉症研究に一つの視野を提供する可能性もある。

#### 3 社会的相互作用と同一性保持現象について

今回、Wingの社会的相互作用の型と「常同行動」あるいは「こだわり行動」の関係を認めることはできなかった。これは今回の調査対象者に「孤立型」がなく、「受動型」と「積極奇異型」のみであったことも関係していると思われる。

#### 付 記

本研究は、2006年度長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科共同研究費によって行われたも

のである。本研究を実施するにあたり、貴重なご示唆をいただいた鬼塚良太郎先生（九州龍谷短期大学）と大神英裕先生（九州大学人間環境学研究院）及び九州大学人間環境学府発達心理学講座の皆様にご感謝申し上げます。また、本研究が実施できたことに対し、関係各位にご感謝申し上げます。

#### 文 献

- 1) 別府 哲 (2001): 自閉症幼児の他者理解. ナカニシヤ出版
- 2) 黒田吉孝 (2007): 自閉症の社会性障害の研究の発展を期待して. 障害者問題研究, 34(4), 241.
- 3) 石井高明, 若林慎一郎 (1967): 自閉症の同一性保持の強い欲求 にかんする考察. 児童精神医学とその近接領域, 8(5), 427-432.
- 4) 鬼塚良太郎, 大神英裕 (1997): 自閉症児・者におけるこだわり行動の変遷について. 九州大学教育学部紀要(教育心理学部門), 42(2), 105-119.
- 5) 星野仁彦, 安藤ひろ子, 金子元久, 八島祐子, 能代永 (1980): 自閉症児の同一性保持行動について. 小児の精神と神経, 20(3・4), 155-163.

資料：こだわり行動に関するアンケート

年齢：      歳      ケ月      診断名	( 診断時の年齢      )
1) 上半身を前後(左右)に揺らすことが	(あ る・な い)
2) 手をひらひらさせることが	(あ る・な い)
3) ジャンプを何回も繰り返すことが	(あ る・な い)
4) 自分の体の一部をたたき続ける、また物にぶつけ続けることが	(あ る・な い)
5) ある特定のもの(人形、車、鉛筆など)を常に持ち歩いたり、そればかりで遊んだりすることが	(あ る・な い)
6) ある特定のコマーシャル、テレビ、ビデオだけを好んで見ることが	(あ る・な い)
7) ある決まった文章や絵を何回も書くことが	(あ る・な い)
8) 電気のスイッチを入れたり消したり、蛇口をひねって水の流れをじっと見たりすることが	(あ る・な い)
9) 同じ食べ物だけを食べようとする事が	(あ る・な い)
10) 車などのおもちゃを並べて遊ぶことに熱中し、それを邪魔されると怒ったり混乱したりすることが	(あ る・な い)
11) 花瓶や絵画などがいつもと違う場所にあることを嫌うことが	(あ る・な い)
12) 学校や買い物に行くとき決まった道順でないと嫌がる事が	(あ る・な い)
13) 就寝や食事、入浴は決まった時間に、決まったやり方でしようとする事が	(あ る・な い)
14) 玄関やドアをくぐる時にどちらの足から踏み出すか決まっていることが	(あ る・な い)
15) ある特定の事に関して同じ質問を繰り返すことが	(あ る・な い)
16) 質問に対して決まった答えや対応するとそれを喜ぶことが	(あ る・な い)
17) タブーなこととしてはいけないことなどについて同じ質問を繰り返すことが	(あ る・な い)
18) ひとりでぶつぶつ物語を話すことが	(あ る・な い)
19) その場にはいない人・架空の人の名前を突然呼ぶことが	(あ る・な い)
20) 友達や親以外の大人を避け、一人でいることが多い。	(は い・いいえ)
21) その時、本人はどのような行動または様子で過ごしていますか？	(自由記述)
22) 人を避けることがないが、要求する以外自発的にかかわっていることはない。	(は い・いいえ)
23) 自発的にかかわっていく。	(は い・いいえ)
24) 自分の要求をどのような方法で相手に伝えようとしていますか？	(自由記述)
25) 朝に1日の予定を理解することが出来ますか	(は い・いいえ)
26) 前日に、明日の予定を伝えておくと次の日も理解していますか	(は い・いいえ)
27) 一週間後の予定を伝え、その事を覚え理解し続けていることが出来ますか	(は い・いいえ)
28) 予定を伝える時、どのような方法で子どもに伝えますか。	(自由記述)
29)      こだわり行動を制止又は、変更させる事は可能ですか？	(非常に困難・困 難・わりとスムーズに可能・可 能)
30)      こだわり行動をうまく制止又は、変更させる為には、どのような対応をすればうまく出来ますか。	(自由記述)